

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念を会議など機会あるごとに唱和し意識付けはしているが、もっと職員の日常的なものとして意識できる仕組みを作る。	理念に根差したユニット目標を作成する。	現在年度の上期と下期に分け、ユニット目標を作成しているが、その課題がどの理念に基づいているかを意識しながら作り上げていくように取り組んでいく。	2ヶ月
2	38	周辺症状の強いご入居者や転倒リスクの高いご入居者が増え、発語等の困難な方やADLの高いあるいは低い方への関わりが少なくなり、全体としての活性化が低下している。	レクリエーションの内容の見直しとグループ分けによる活動計画を立てる。	定期的な活動ができないことが多くなっているため、ADLのグループ分けや個別の好みの事の把握に努め、レクリエーション等によるグループホームらしい活性化を図る。	6ヶ月
3	33	認知症状だけをお持ちで介護度が高く、高齢のご利用者が増加する中で、重度化が進み、グループホームでの「看取り」を望まれるご利用者ご家族が増加すると考えられるが、「見取り」の意識が職員には薄い。	「看取り」についての知識や情報、技術を身につける。	まず「看取り」に対する不安は何なのか、その不安を取り除くためにはどうする必要があるかを話し合い、「看取り」への意識を高めていく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。